

佐賀の伊与木川を守る会 佐賀保育所児童らがアユ放流

5月23日、不破原地区の伊与木川で高知県内水面種苗供給協議会の協力のもと、佐賀の伊与木川を守る会(西村策雄会長)が主催し、稚アユの放流を行いました。

今年で4回目になる稚アユの放流に、佐賀保育所の年中・年長の園児31人と、同会会員が参加しました。

今回、放流した稚アユは約2000〜3000匹。会員の会費と町内建設業者約10社の寄付により稚アユを購入しました。子どもたちは「元気に育つて早く大きくなってね」と、澄んだ川の中を泳ぎ去る姿を見送りました。

「山が綺麗になり、川が綺麗になり、みんなで綺麗にしましょう」と本会の明神輝男さんが園児たちに話しをして、放流を終わりました。園児たちはお土産にノート・クレヨンなどを貰い、喜んでいました。



片坂バイパス見学

5月12日、国土交通省・施工会社(株)富士ピー・エスの協力のもと、佐賀中学校3年生が工事中の市野瀬橋上部工事現場を見学しました。市野瀬橋は、橋脚高・地上高ともに四国内では2番目に高い橋となっています。

生徒たちの中には、同工事現場を小学校6年生の時に見学した生徒もおり、以前は柱だけだったのが、今回来て見ると上部に橋が架かっている事に驚いた様子でした。

片坂バイパスは、南海トラフ地震や、豪雨時において、法面崩壊などの災害発生時の緊急輸送道路としてだけでなく、地域産業の活性化に寄与する重要な道路です。なお、片坂バイパス(延長6.1km)は平成30年度開通に向け、工事を進めています。



プレストレスコンクリート(PC)の実演も見学しました。

宝くじコミュニティ助成事業で資機材の整備

芝地区自主防災組織が、宝くじの社会貢献広報事業として、宝くじの受託事業収入を財源に実施しているコミュニティ助成事業を活用し、助成金で防災資機材の整備を行いました。

今回の事業で、テントや発電機、簡易トイレなどの災害時に必要な防災資機材を購入し、さらなる防災機能の強化を図ることができました。



○お問い合わせ
本庁情報防災課

☎ 43-2188(直通)

保小中高合同避難訓練

5月23日、大方中央保育所・大方小学校・中学校・高校の合同避難訓練が行われました。

今年で5回目になる合同非難訓練。地震発生(仮定)後、非難ルートを通りながら、避難場所である錦野公園を目指しました。

保育所の園児の中には泣きだしてしまう子どももいましたが、児童たちは真剣な面持ちで訓練に取り組んでいました。

70%・30年以内という数字は南海大地震が起きる可能性だとされる数字です。最近の調査ではもっと高い確率で起きるのではないかとも言われています。

避難場所に着いてからは、自衛隊の方や中学校の教頭先生から講評がありました。いつ起こるかわからない地震に日頃から備えをすることや、非難訓練の大切さについてお話をいただきました。

